資料２

令和８年度　多様な主体間における連携・協働による
『避難生活支援・防災人材育成エコシステム』構築の具体化に向けた検討会

リーダー／サポーター研修受講者のフォローアップ

令和７年度に検討したフォローアップ方策

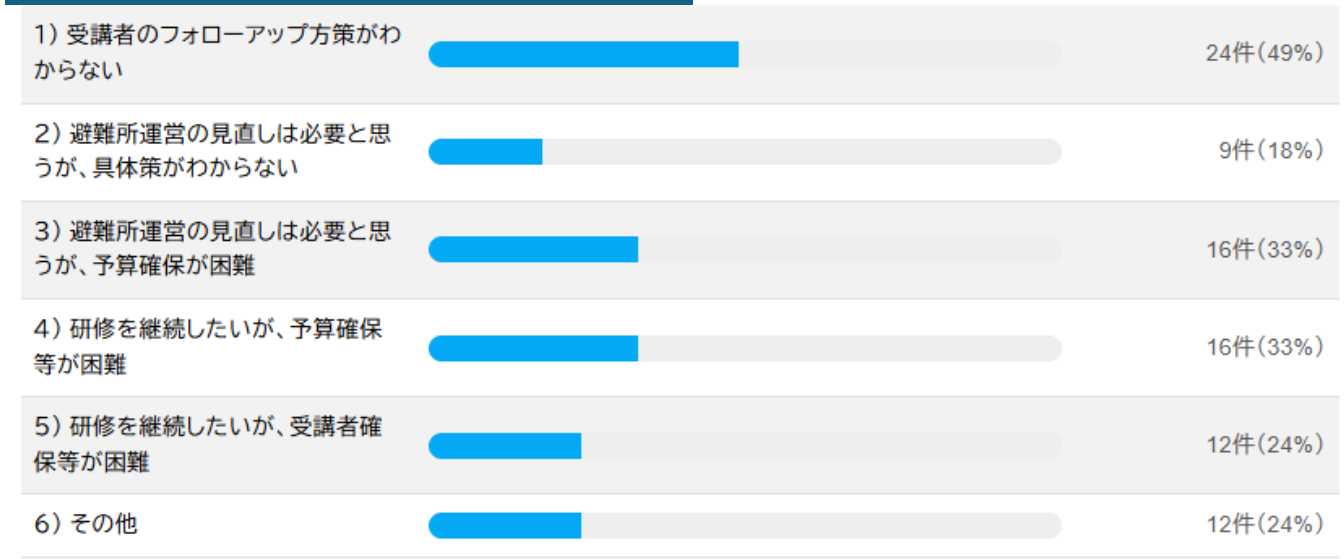
【現状】
- 研修開催ごとに、名簿登録を行い、とりまとめた名簿データは、内閣府、開催都道府県・市町村に共有
- 登録者には、毎月１回の頻度でメールマガジンを発行
- 毎年度、登録情報の更新をしており、更新した情報は、開催自治体に共有
- 今後は、内閣府のデータベースで管理し、自治体に共有することを想定

【フォローアップの例】

以下のような方策（アイデア）が考えられる
- 受講者の意欲や関心を継続するための勉強会開催（オンライン開催等）
- 開催自治体（都道府県・市町村）からの研修・訓練等の情報提供・参加案内
- 内閣府が実施する催事の情報提供・参加案内
- 受講者同士が交流・情報交換する機会の創出
- 受講者同士が企画する取組の支援
- 受講者の組織化の支援
- 災害時の状況確認（連絡）　等

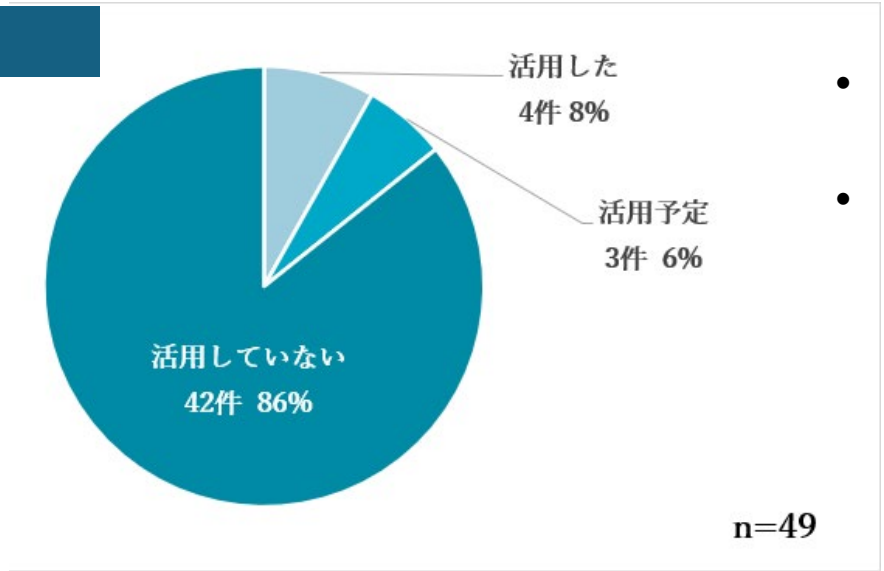
開催自治体を対象にしたアンケート調査結果（概要）

研修実施を踏まえての課題感



- 「受講者のフォローアップ方策がわからない」の回答が24件、49%と最も多い
- 次いで「避難所運営の見直しは必要と思うが、予算確保が困難」および「研修を実施したいが、予算確保が困難」が16件、33%となった。

登録名簿の活用



- 「活用していない」の回答が42件、86%と最も多い
- 次いで「活用した」が4件、8%、「活用予定」が3件6%となった

開催自治体を対象にしたアンケート調査結果（自由記述）

避難生活支援リーダー／サポーターのフォローアップの課題

- フォローアップをはじめ、継続して携わっていただける環境の構築が必要であるといる
- 避難所サポーター研修で要員を養成したものの、リカレント教育ができていない。
- リーダー／サポーター研修受講者に向けたフォローアップ研修や、被災地視察研修などを希望する

研修の情報提供

- 職員に時間的余力があまりない中、WEB等で時間や場所を選ばない短時間かつ効率的な研修等があれば情報提供してほしい。
- 避難所運営をマネジメントするサポーターの育成、協定締結団体や育成したサポーター、市町村と連携した避難所運営訓練、避難所運営手引きの作成を考えており、助言いただきたい。

自走式研修のハードルの高さ

- 事業は大変素晴らしく有益であると思う。一方で自治体の自走研修は、運営、講師、予算確保など実施のハードルが高い。
- モデル研修については実施自治体数を増やし、各都道府県内の全地域で一つ以上の自治体が実施済の状態になるまで継続していただきたい。多くの自治体職員が近隣の自治体のモデル研修に参加する環境が生まれ、その経験を自身の自治体にフィードバックできる。そして、自走研修のハードルが下がれば各自治体が研修を実施し、地域防災力の向上につながる

開催自治体との連携の強化

想定される対応案

1. 受講者へのフォローアップの考え方の共有

①他の自治体でのフォローアップの事例を自治体に共有する

※長野県箕輪町、石川県穴水町、静岡県富士市などでフォローアップの対応をしている

②受講者フォローアップの事例は、毎月発行しているメールマガジンで紹介する

③受講者へのニーズ等のアンケート調査、結果のフィードバックを行う

2. 平時における災害時の連携方針の確認

※熊本県八代市の例を元に今年度検討

学習会開催（オンライン）

想定される対応案

名簿登録者を対象としたオンライン学習会を開催する

- 頻度：２～３か月に１回程度
- 時間：平日夜間最大２時間程度
- 周知：メールマガジン、受講者へのDM
- 話題提供者：避難生活支援リーダー／サポーター研修講師
- 内容：避難生活支援の個別テーマを想定（研修で十分な説明ができなかった内容等）

  例：避難所TKB（トイレ・キッチン・ベッド）＋BL（バス・ランドリー）

  災害時のジェンダー平等／災害時のトイレ対策

  統合・閉所後の対応　等

受講者同士の情報交換に向けて

想定される対応案

1. 受講者同士が情報交換できる機会の検討

- ぼうさいこくたい・防災とボランティアのつどいなど、内閣府が実施する企画において、受講者同士が情報交換できる機会を提供する（オンライン・実会場）

2. 令和８年度モデル研修・自走式研修の案内と当日サポートの依頼

- 開催経験のある地域において、その地域の受講者を対象に、令和８年度研修において当日サポートを依頼する
- 当日サポートは、演習等の進行支援などを想定

3. 地域事務局を担う団体との意見交換を通じて、フォローアップ策の可能性を検討する

- 令和８年度地域事務局を担う団体（災害中間支援組織等）を対象に、オンラインで意見交換を行う
- 考えられるフォローアップ策：受講者同士が交流・情報交換する機会の創出、受講者同士が企画する取組の支援、受講者の組織化の支援等

地域事務局による受講者のフォローアップ

想定されるフォローアップ例

1. 受講者同士が交流・情報交換する機会の創出

- 地域事務局が、都道府県内の受講者が交流・情報交換する企画を県・市町村と協議し、周知、当日運営などを担うことが考えられる
- 年1回以上の頻度で実施することが望ましい。

2. 受講者同士が企画する取組の支援

- 都道府県内の受講者有志が、避難生活支援に関する勉強会や訓練等の実施を希望する場合、地域事務局が企画等をサポートすることが考えられる

3. 受講者同士の組織化の支援

- 都道府県内の受講者有志が、継続して交流や勉強会等の活動を実施する意思がある場合、地域事務局が組織化を支援することが考えられる
- 組織の規約、体制、事業、活動財源など、NPO支援などのノウハウを活かした支援をすることが望ましい

ご意見いただきたい点

1. フォローアップの方策内容の妥当性
2. フォローアップの具体的な内容についてのご意見
3. フォローアップ策としてほかに考えられる内容
4. その他ご意見